

楽しく論理的読解力を育てるポイント



他県の盲導犬育成施設の方の、盲導犬のことを知ってほしいという願いを受け、「人ともうどう犬のつながりリーフレット」を作り、施設に展示してもらうという活動を設定する。教科書の本文中で盲導犬についての定義が変わっていることの真意を確かめるため、原典を重ね読みしてリーフレットにまとめることを通して、中心となる語や文を見つけて要約する力を付ける。

1 単元のデザイン

単元の重点目標<本校で育てたい資質・能力との関連>

- 考えとその理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識・技能(2)ア]
- 目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約することができる。
[思考力，判断力，表現力等C(1)ウ] <論理的読解力>
- 進んで本を読んだり友達と話し合ったりしてリーフレットを作り，盲導犬の理解のために役立てようとする。
[学びに向かう力，人間性等] <積極性>

教材について

本教材「もうどう犬の訓練」の文章は、盲導犬の定義や役割，訓練の段階を、順序立てて説明している。盲導犬の訓練の内容や様子が分かりやすい文章構成で述べられているため、中心となる語や文を見付けやすく、段落ごとの内容を捉えやすい。要約を初めて学習する児童に適した教材文である。

話題提示では、盲導犬の定義が、「もうどう犬は、目の不自由な人が、町を安全に歩けるように、目の代わりとなって助ける犬です。」となっているのに対し、まとめでは、「目の不自由な人にとって、もうどう犬は体の一部であり、心の通う家族なのです。」と書かれている。この定義の変化の真意を確かめるために、原典を読む必然性が生じる。そこで、教材文と原典「盲導犬ものがたり」を重ね読みし、訓練が始まる前の犬と人とのつながりに着目させていく。そして、教材文で読み取ったことと原典から見付けた情報を組み合わせて、「人と盲導犬のつながり」に対する自分の考えをもたせていく。

盲導犬のことを知ってもらうため、人ともうどう犬のつながりについて、どの内容をどのようにまとめるかを考え、リーフレットを作ることで、要約する力を付けることが期待できる。

児童について

評価テストの観点	単元前 正答率
○中心となる語や文に着目し、内容を読み取っている。	80%
○段落相互の関係を読み取っている。	29%
○内容を読み取り、短くまとめることができる。	56%

本学級の児童は、6月に説明文「自然のかくし絵」で、段落の中心となる語や文を捉えながら読み、「自然のかくれんぼ名人カード」にまとめる学習を行った。選んだ昆虫の図鑑の写真なども手掛かりにしながら、観点に沿ってキーワードを抜き出しカードに短くまとめることができるようになってきた。

しかし、評価テスト(7月5日実施)では、中心となる語や文に着目して内容を読み取る力は付いているが、キーワードを使って短くまとめる力が付いている児童は約半数、段落相互の関係を読み取ることができる児童は約3分の1という結果となった。

このことから、中心となる語や文を見つけて分かりやすく書き換えたり言葉を補ったりして短くまとめ、読み取ったことを要約する力が必要となる。また、この力は、段落相互の関係を捉える力につながると考える。

指導について

本単元の初めに、アイマスク体験や盲導犬との出会いの場を設定することで、児童に盲導犬を身近に感じさせ、たくさんの人に盲導犬の素晴らしさを知らせたいという気持ちをもたせる。そして、「人ともうどう犬のつながりリーフレット」を作り、他県の盲導犬育成施設に置かせてもらうというゴールを設定し、目的意識・相手意識を明確にして、見通しをもって学習に臨ませたい。

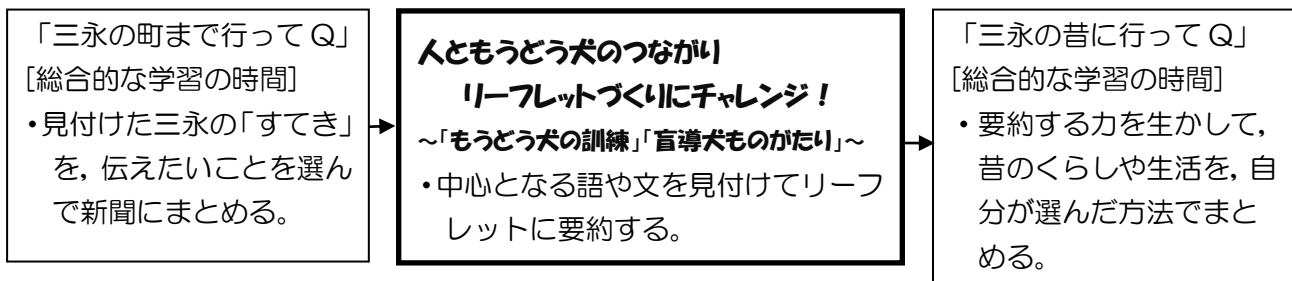
また、リーフレットを作るという言語活動を設定し、限られた紙面の中で伝えたい内容を分かりやすくまとめるために、短い言葉で情報を取り出すという必然性をもたせたい。そして、教材文を1枚で示し、段落相互の関係をつかんで大まかな内容を把握させるとともに、盲導犬についての定義が始めと終わりで変化していることに気付かせる。この真意を確かめるために原典を重ね読みし、参考にしながら考えさせる手立てとしたい。さらに、リーフレットにまとめる際には、字数制限を設け、中心となる語や文を使って要約する力を付けていきたい。

この学習を通して、自分たちが作った「人ともうどう犬のつながりリーフレット」が盲導犬を理解してもらうことに生かされるという学ぶ意義を理解させ、主体的に学ぶ姿勢を育成したい。

2 単元の重点目標に対する評価規準

知識・技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学びに向かう態度
盲導犬の訓練について, 考えとその理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	リーフレットを作るという目的を意識して中心となる語や文を見付けながら読み, 書かれている内容を要約している。	人と盲導犬のつながりに関心をもち, 進んで本を重ね読みしたり友達と話し合ったりしてリーフレットを作り, 盲導犬の理解に役立てようとしている。

3 他教科等との関連



4 指導計画 (全 14 時間)

次	学習活動(時)	評価			指導の留意事項
		知	思	主	
○ 出 会 い	・盲導犬教室で盲導犬に出会ったり, アイマスク体験を行ったりし, 働く犬や目の不自由な方の生活について関心をもつ。			○	・盲導犬や目の不自由な方の生活について目を向けさせ, 自分なりの考えや疑問がもてるようにする。
一 見 通 し	課題の発見(1) ・「もうどう犬の訓練」を読んで, 盲導犬のことを知らせるために, リーフレットを作るという学習の見通しをもつ。 ・学習計画を立て, 教材文の始めと終わりをまとめる。	◎		○	・盲導犬教室での話を想起させ, 他県の盲導犬育成施設に来た人に「人と盲導犬のつながり」について知らせるといった目的意識, 相手意識をもたせる。 ・筆者が盲導犬の定義をどのように書いているか確認させ, 定義の変化に気付かせる。

二 構造と内容の把握	課題の追究①(4) <ul style="list-style-type: none"> ・ 順序や事例に着目し、段落相互の関係を意識して、盲導犬になるための訓練について大まかにまとめ、要約する。(3) 	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文に書かれた訓練がいくつあるのかを考えさせ、順序を表す言葉や具体例、指示語に注意して読み、段落相互の關係に気付かせる。 ・ 中心となる語や文をまとめ、リーフレットに書く内容を決めさせる。 ・ 字数制限を設け、言葉を吟味して要約できるようにさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成した訓練のようすの部分のリーフレットから、盲導犬が心の通う家族になることが分かるかを話し合う。 	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文だけでは定義の変化についての課題が解決しないことに気付かせ、原典を参考にするという新たな視点を与え、原典を読む必然性をもたせる。
三 精査・解釈	課題の追究②(5) <ul style="list-style-type: none"> ・ 原典の中の一緒に生活したり歩いたりする練習の部分を読んで、定義の変化につながる情報を見つけて要約する。(2) 	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見付けた情報を友達の考えとの共通点や相違点に着目しながら交流させ、自分なりの考えをもたせ、要約させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原典の中の1歳になるまでの部分を読んで、定義の変化につながる情報を見つけて要約する。 (2) (本時9/14時間) 	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見付けた情報を友達の考えとの共通点や相違点に着目しながら交流させ、自分なりの考えをもたせ、要約させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーフレットのまとめとして、「人と盲導犬のつながり」についての自分の考えを書く。 	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を通して、盲導犬について分かったことや考えたことについての自分の見解をまとめさせる。
四 考えの形成・共有	学びの深化(3) <ul style="list-style-type: none"> ・ リーフレットを読み合い、アドバイスを基に修正し、清書する。(2) 	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読む観点を提示し、項目に沿って推敲させる。 ・ 読み手を意識して、伝えたいことが分かるように丁寧にまとめさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成した「人と盲導犬のつながりリーフレット」を隣のクラスと読み合い、感想を交流する。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のリーフレットを見て、文章表現や情報のまとめ方のよいところを交流し、感じ方の違いに気付かせる。
	まとめ・振り返り(1) <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習全体を振り返る。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を通して、分かったことや付いた力の確認、今後の学習に生かしたいことを自分の言葉でまとめさせる。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

人と盲導犬のつながりが分かる部分を読み取り、リーフレットに要約することができる。

(2) 本時の学習展開 (9/14)

展開 (形態)	主な学習活動と予想される児童の思考	教師の働きかけ ◎評価規準(方法)◇配慮を要する児童への手立て
つかむ (全体)	<p>○前時までの学習を想起し、本時の見通しをもつ。</p> <p>○学習課題をつかみ、ゴールを確認する。</p>	<p>・人と盲導犬のつながりについて分かったことや「家族」についての考えを発表させ、本時の学習につなげていく。</p>
考えを出し合い、吟味する(個→グループ→全体→個)	<p>○原典から、人と盲導犬のつながりが分かる部分を読み取り、心の通う家族になる理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しつけをきちんとする。 ・ほめられるとうれしい。 ・人間とのくらしになれる。 ・人間の愛情が分かる。 <p>○考えた理由をグループで話し合い、キーワードにまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>話し合う視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どのような人との関わりがあったか。 ○その関わりがなぜ心の通う家族になることにつながるのか。 </div> <p>○全体で交流し、自分の考えを深める。</p> <p>○盲導犬が1歳になるまでの人との関わりについて50字程度で要約する。</p>	<p>・評価基準を示し、本時のゴールへの見通しをもたせる。</p> <p>・見付けた言葉や文が、児童の考えた「家族」の定義とつながるかを吟味させる。</p> <p>◇見付けにくい児童には、盲導犬がすることを見付けさせ、話し合いに参加できるようにしておく。</p>
まとめる(全体→個)	<p>○本時のまとめをする。</p> <p>○本時の学習内容を振り返る。</p> <p>○次時の学習内容を知る。</p>	<p>・選んだ語や文とともに、なぜその部分を選んだのか理由を言わせ、短くまとめさせる。また、後から自分の言葉でまとめやすくできるように、キーワードをつなげながら話し合うようにさせる。</p> <p>・人と盲導犬の関わりについて書かれているところを交流し、「人とのつながり」に気付かせる。</p> <p>・読み取ったことと自分の考えを重ねながら、要約させる。</p> <p>◎中心となる語や文を読み取り、要約している。 (リーフレット)</p>

もうどう犬が心の通う家族になる理由を見つけて、リーフレットに要約しよう。

話し合う視点

- どのような人との関わりがあったか。
- その関わりがなぜ心の通う家族になることにつながるのか。

◎おおむね満足できる児童の姿

- ・盲導犬になる犬は、ふつうの家で飼われ、しつけをされるので、家族としてのくらしに慣れます。
- ・盲導犬になる犬は、ふつうの家で飼われ、かわいがられるから、人間の愛情が分かるようになります。

(3) 板書計画

「人とどうどう犬のつながりリーフレット」づくり
チャレンジ！
吉原 順平

「もうどう犬の訓練」「盲導犬ものがたり」

めあて
もうどう犬が心の通う家族になる理由を
見つけて、リーフレットに要約しよう。

家族
あたたかい 安心 なかよし
支え合う いっしょ

キーワード
かかわり
理由
ふつうの家
もうどう犬を使う人の生活
もふつうの家
じゃまをしないように

しつけ
一家の一員
人間とともにくらす
くらしになれる
子どもに世話を
あいじょうが分かる
してもらう

・楽しくきびしい生活
あいじょうを知る
人間とくらす犬としての
しつけを身につける

★★ キーワードを使
って、「理由と結果」
がわかるように要
約する。

★★ キーワードを生
かし、自分の言葉で
要約する。

要約の仕方の例
家族
もうどう犬になる犬は、
（理由）から、（結果）ます。
（理由）ので、（結果）ます。

ふり返り